

抄読会（分野打ち合わせ）

少子高齢化社会における小児医療の医療資源予測のための空間解析

博士課程 3 年目 田邊雄大

概要

昨今、急速に日本は少子化が進行している。将来に渡って更に進行する少子化社会において、医療資源（病床数）をいかに適正に配分すべきかを検証するモデルを構築するための、空間解析の可能性を検証した。さらに、2020 年以降の二次医療圏ごとの 15 歳未満人口の推移を解析するためのデータ準備を行った。

前回に引き続き、空間解析の実践を紹介した。今回は、二次医療圏別での小児人口の変化について、空間解析を実施した（結果については簡略的に提示）。さらに NDB オープンデータで公開されている「小児入院医療管理料」の算定数で検証可能かを検討した。二次医療圏単位で見れば、15 歳未満人口と小児入院医療管理料の総算定数には相関があると分かったので、予測モデルの構築に繋がられる可能性があると考えた。

二次医療圏別のデータを整えることは完了したので、医療需要予測にどのように繋げていくのか、参加者から意見を頂いた。現時点で実施可能なことと本来研究で行いたいことの乖離（ギャップ）をどのように埋めていくのか、を検討していく予定である。不確実性がある中で、予測モデルの確からしさが課題と思われる。